

act 12

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館
アクト

DECEMBER 2012



狂言／式

KYOGEN II

狂言はお笑いの ルーツでござる。

コント、漫才、ものまね、落語、新喜劇。

日本には古いも若きも楽しめる、笑える演芸がそろっており、驚くほどのバリエーションの多さです。そんな喜劇にうるさい国の笑いのルーツ、それが「狂言」なんです。

狂言が誕生したのは、室町時代。ストーリーも型も厳密に決まっており、つまりタイムスリップしたかのように今も昔も同じことが舞台の上では繰り返し広げられています。

笑いは繰り返されると飽きられ、時代ごとのやりがあるもの。にもかかわらず、600年以上も伝え続けられ、しかも現代人が共感してしまうおもしろさがある狂言は、人の笑いを研究し尽くした、喜劇の完成形といっても過言ではありません。ただ見るだけでもおもしろい、深く知るほど夢中になる。そんな古くて新しい笑いの世界に足を踏み入れてみませんか。

開館35周年記念

野村万作・萬齋狂言会

『金岡』『止動方角』

平成25年1月22日(火)

札幌市教育文化会館大ホール

金岡
野村万作
Nomura Mansaku



【見どころ】 実在した絵師・金岡を題材にした狂言。一番の見どころは絵の具を使い、舞いながら妻の顔にペインティングしていくところ。出来上がりはどんな顔になるのでしょうか。また狂言にはあまり登場しないコーラス的な役割の地謡(じうたい)も聴くことができる演目です。

金岡

絵師・金岡が落外をさまよい歩いていると聞いた妻が夫を探しに行く、金岡が乱心の態で謡いながらやってくる。理由を聞く妻に金岡は、絵を描きに宮中へ上った折出会った美しい上臈(女中)の面影が忘れられないと言う。妻は呆れながらも、妻の顔に得意の技で彩色し、かの上臈に似せてみては、と勧める。早速給筆をとる金岡だが…。

狂言には珍しい恋慕を中心に据えた大曲です。



太郎冠者
野村萬齋
Nomura Mansai



止動方角

太郎冠者は茶くらべで見栄を張りたい主人に命じられ、伯父に茶と太刀と馬を借りに行く。ところが借りる馬には癖があり、後ろで咳をすると暴れ出すという。無いよりはマシと連れて帰るが、太郎冠者を待ちかねた主人は、労をねぎらうところかいきなり遅いと叱りつける。腹を立てた太郎冠者は、さっそく主人を乗せた馬の後ろで咳をして…。

一頭の馬をめぐる、太郎冠者と主人が繰り広げる大活劇。中世のたくましい人間模様がつぶさに伝わってきます。

【見どころ】

なんといっても、現代人も共感できる主従関係のイザコザと、現実ではなかなかありえない上下関係の逆転劇。荒唐無稽な話も多い狂言ですが、この演目はしっかりとした構成をもった物語。馬役は賢徳(けんとく)という面をつけ、着ぐるみを着て登場。馬のユーモラスな動きに注目です。

狂言のこと、きいてみよう!

市民と芸術をつなごう!と日々がんばる教文大使のコネ・クートくん。
今回は狂言についてもっと知りたいな!ということで、
教文のモノシリ博士に質問してみました。

1

Q そもそも狂言って?

A 室町時代に成立した、日本最古のセリフ劇だよ。
しかも、笑っちゃうストーリーが多くて、
お笑いのルーツとも言われてるんだ。

教文では、毎年
狂言を
上演しているよ。



コネ・クートくん
designed by ロケットデザイン



モノシリ博士

2

Q 能とは違うの?

A もともと能と狂言はひとつで、
猿楽と呼ばれていたんだ。
能の主人公は面をつけて、
歌と舞で表現。狂言は面をつけずに
セリフで表現するよ。

能と狂言を合わせて
「能楽」っていうんだ。



3

Q 難しくないのかな?

A 狂言の主人公は、今で言うサラリーマンの
ような一般市民なんだ。上司との
イザコザやお酒を飲みすぎて大失敗、
なんて共感できる話が多いから、
むしろわかりやすいよ!

ボクでも
わかるかな...?

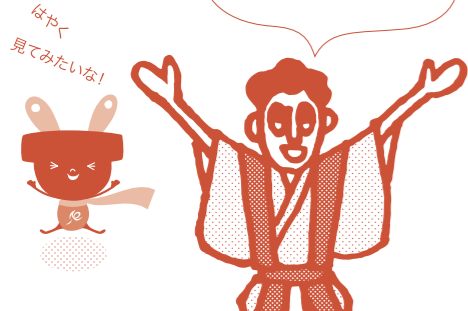


4

Q どんなストーリーがあるの?

A 笑えるものばかりだけど、
一口に笑いといっても種類が
いろいろあるんだ。
わかっちゃいるけどやめられない、
という「風刺の笑い」。
笑いの中に楽しみを含んだ
「和楽の笑い」。
ストーリーはないけど
おめでたい雰囲気舞い踊る
「祝言の笑い」。
狂言は、まさに笑いの
ミュージアムなんだよ!

狂言には
すべての笑いがあるんだ!



5

Q どんな登場人物がいるの?

A 狂言の登場人物には特定の名前はなくて、
使用人である「太郎冠者」「次郎冠者」や
大名、山伏、妻など役柄で登場するよ。
普遍的な、どこにでもいる人という
意味なんだ。

「たろう」って
名前じゃないんだ。



6

Q 狂言を楽しむコツは?

A 事前にあらすじを知っておこう!
本番でなにが起こっているのか
わかりやすいよ。
あとは観たままに
楽しむ!

公演チラシの
あらすじを
読むだけでもOK!



狂言と動物のふか〜い仲

狂言には大名、山伏などたくさんの人物が登場しますが、
狐や狸、猿、犬、ニワトリなどバリエーションに富んだ動物たちも出てきます。
切っても切れない狂言と動物の関係のこと、お教えします。



狂言のルーツ? 動物ものまね

そもそも狂言は唐から伝わってきた散楽という
芸能がもとになっています。曲芸や踊り、人形
まわしなどの娯楽のことをまとめて散楽とい
いますが、ものまね、特に動物の格好をしてお
もしろおかしく様子をまねる芸も含まれていま
した。狂言はそこから発展した芸能なので、200
以上ある演目の中にも数多く動物が登場しま
す。おもしろいのは、泣き声のまねかた。犬は
「ワンワン」ではなく「ビョウビョウ」、ニワトリは
「コーコーコーコキヤー」、フクロウは「ポッホー
イ」など、現代のまねかたとはちょっと違います。
当時の人にはそのように聞こえていたでしょ
うか。自然が今よりも豊かで、そのぶん動物と
の関りも深かった時代。自然と共生する日本人
の姿も知ることができるのが狂言なのです。



猿にはじまり狐におわる

動物と関りの深い狂言ですが、そのことをもっとも表している
のが「猿にはじまり狐におわる」という言葉。猿とは「靱猿(う
つぼざる)」に出てくる。猿回しが連れてくる子猿のこと。大名
が猿の皮を欲しいと命じ、猿回しは、泣く泣く殺そうと杖を振
り上げますが、無邪気な猿はその杖を取って船を漕ぐものま
ねを始めます。大名も猿の無心な姿に心打たれ改心するとい
う話です。子猿役は子どもが演じますが、3歳で役に当たるこ
とも。大名、猿回し、猿と親子3代で演じられることもあり、親
から子へと芸を伝える大事な演目です。また狂言師の最終
試験とも言われているのが「釣狐(つりぎつね)」。老狐が人間
に化けて、狸師に狐狩りをやめるように説得にいきますが、ワ
ナの餌に目がくらんで正体がばれてしまい...という筋。これま
で修行してきた技術を封じこめ、狐の姿勢や歩き方、身振り
など、あえて特殊な演じ方をしなければならず、体力的にも厳
しいからこそ一人前の狂言師しか演じられないのだそう。

人物以外の面々、ごらんあれ。

狂言は直面(ひためん)といって、面をつけずに表情豊かに演じますが、
人間以外を演じるときは面をつけて区別します。
動物はもちろん、鬼や蚊の精まで登場し、
役によって面も替えています。



賢徳 (けんとく)

猿や狐など狂言でメジャーな
動物以外の馬や牛、そして蟹
や茸のオバケまでさまざまな
役のときにつけられる。ちょっと
とぼけた顔付。



狐

大曲である「釣狐」に使う面。狂言
ではユーモラスであったりデフォル
メした面が多い中、狐だけはリアル
な表情。



猿

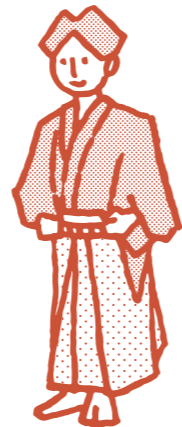
「靱猿」の面。猿回しが背負えるく
らいの年齢で演じるため、面も他
に比べかなり小さく作られている。

鬼

姿勢は基本よりも横に大きめに
開いている。代表的な姿は、
目鼻口の大きな「武悪(ぶあく)」という面、赤い毛のついた
鬼頭巾、竹の杖を持つ。ひと
目でわかるいでたち。



軽く膝をまげ重心を低くし、
腰を伸ばして胸を張り、あご
を引く。両腕は外側へ張り
指を軽く握る。



女

基本の立ち姿よりも腕を張らずにからだを
小さく見せるようにしている。女性は美男鬘
という頭巾もかぶっている。

基

本の立ち姿



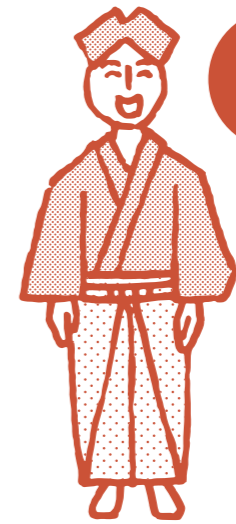
狂言の型

伝統芸能である狂言は、基本の立ち姿から
喜怒哀楽の表現に至るまで型が決まってい
ます。男や女、役ごとの違い、動物などの型
も決まっていますので、知っておけばスト
リーがもっとわかりやすくなるはず。

笑

う

肩を張って、大きく口を開け、お腹の底から
大きな笑い声を出す。小さな笑い、普通の
笑い、腹の底からの大笑い、福の神や大名
などそれぞれに型がある。



蚊

「蚊相撲」に出てくる「蚊の
精」は空吹(うそふき)とい
うひょっとこ顔の面をつけ、袖
を持ちながらびよんびよんと
跳ねる。蚊そのものではなく、「蚊の精」というユーモラ
スな表現が見どころ。

泣

く

手を顔の眉あたりに添えて片手
を添えて「エヘ、エヘエヘ」と
発声。両手を添えて座り込む
と大泣きしていることに。

